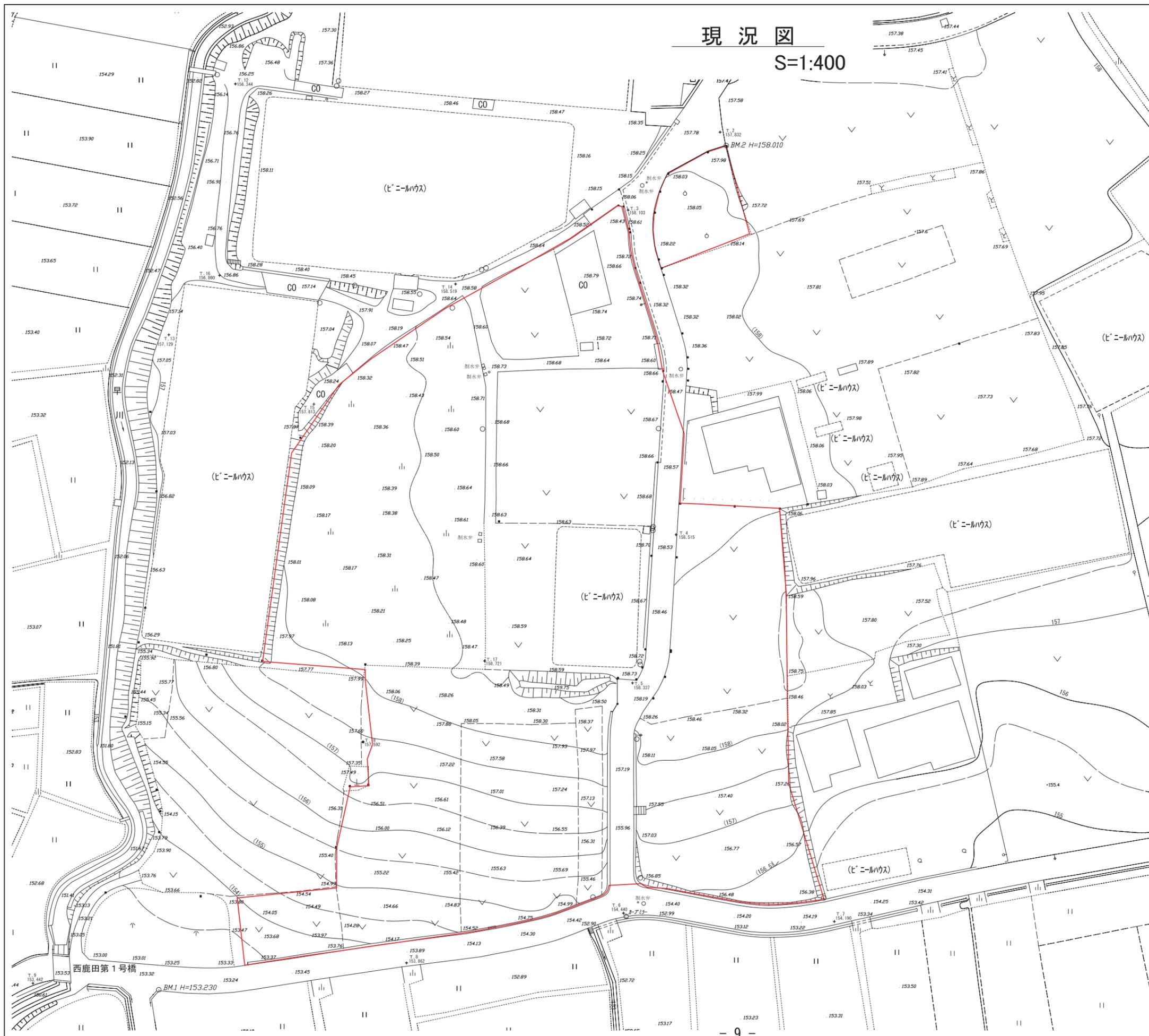


# 現況図

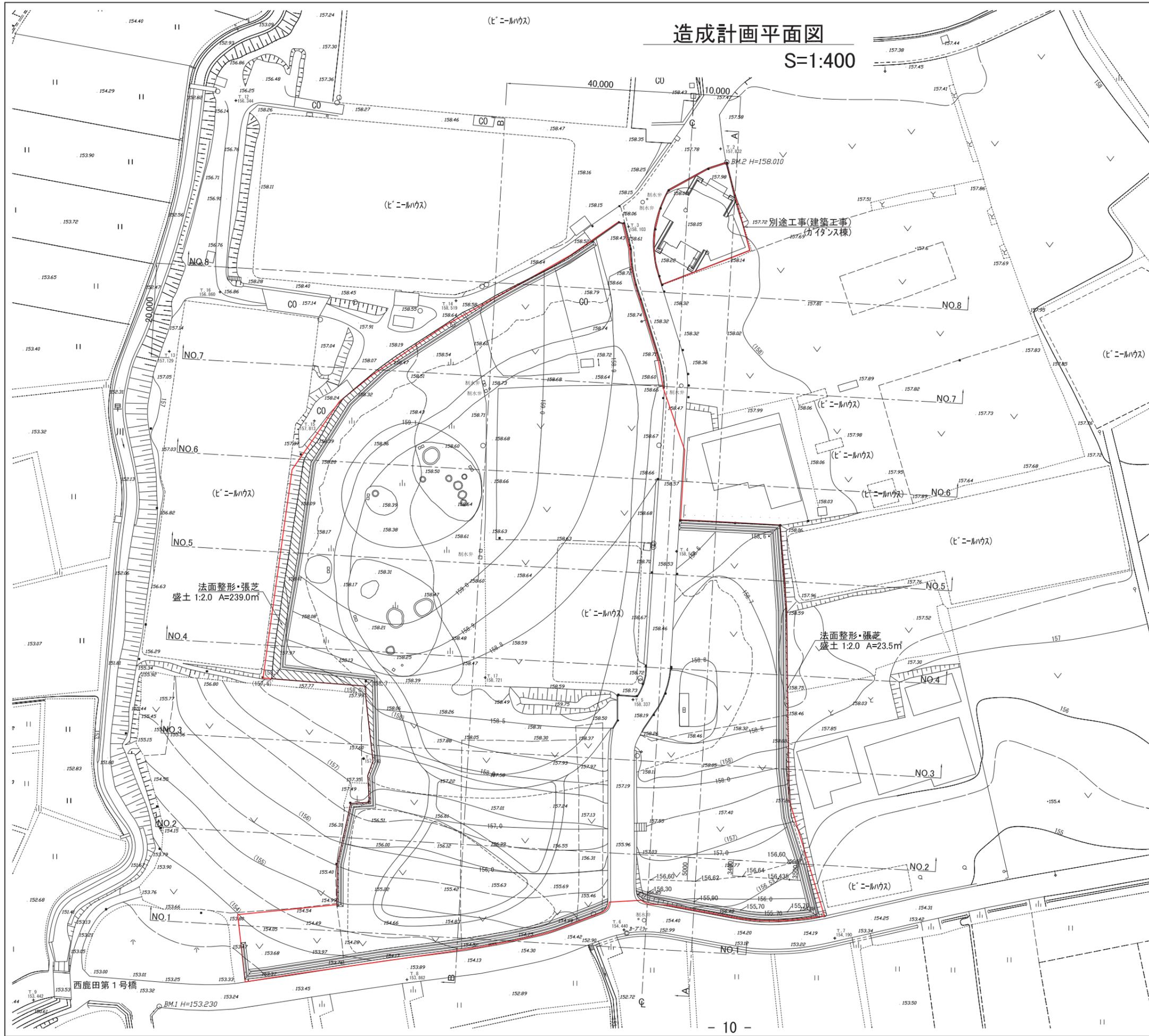
S=1:400



平成27年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備	
現況図	
縮尺 1:400 (A1)	番号 3
27年 7月 日	
計画機関	みどり市
作業機関	有限会社ウッドサークル

# 造成計画平面図

S=1:400



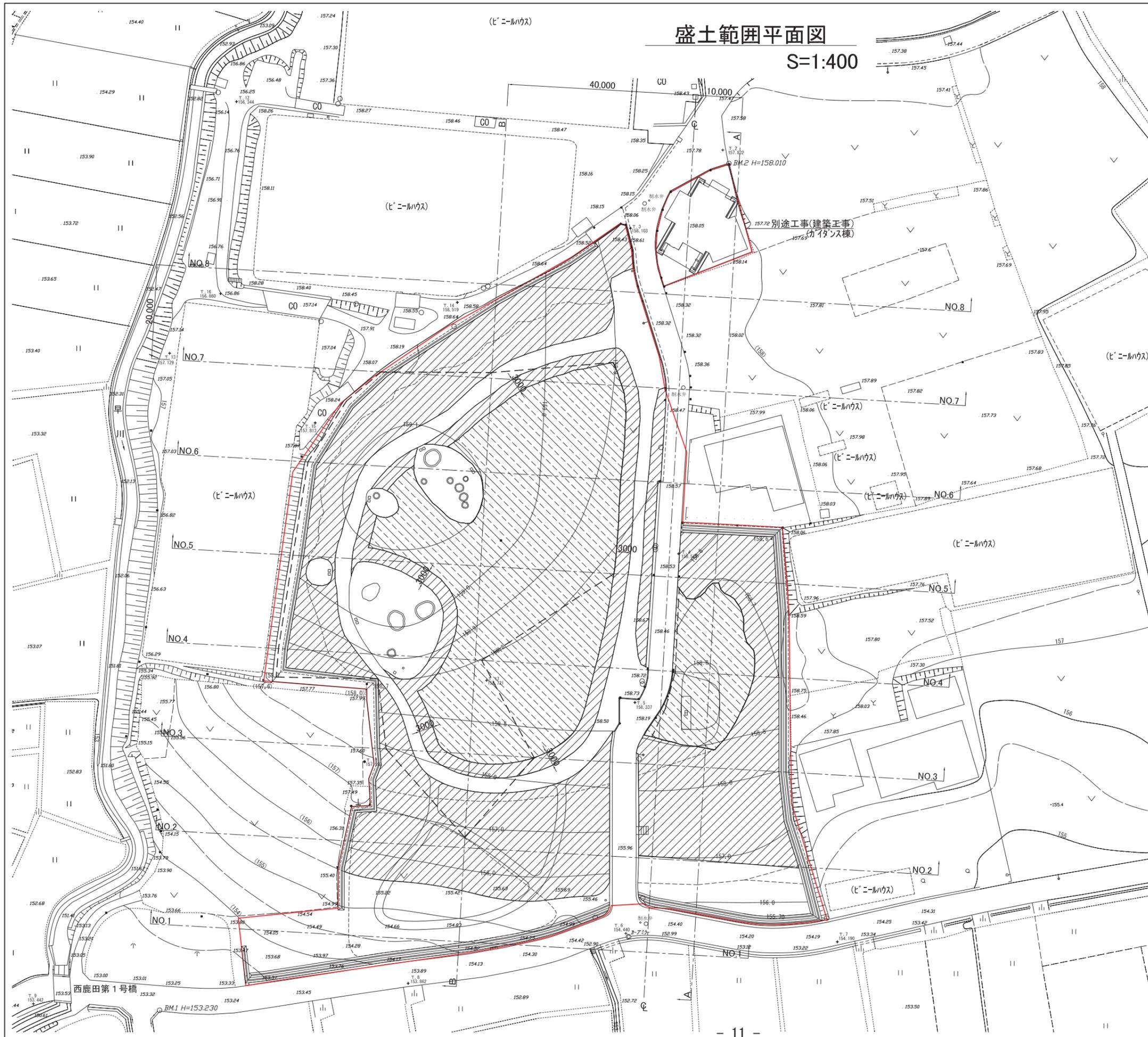
凡例

	法面整形・張芝 切土
	法面整形・張芝 盛土
	NO.1 横・縦断面位置
156.60	計画高

平成27年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備	
造成計画平面図	
縮尺 1:400(A1)	番号 5
27年 7月 日	
計画機関	みどり市
作業機関	有限会社ウッドサークル

# 盛土範囲平面図

S=1:400



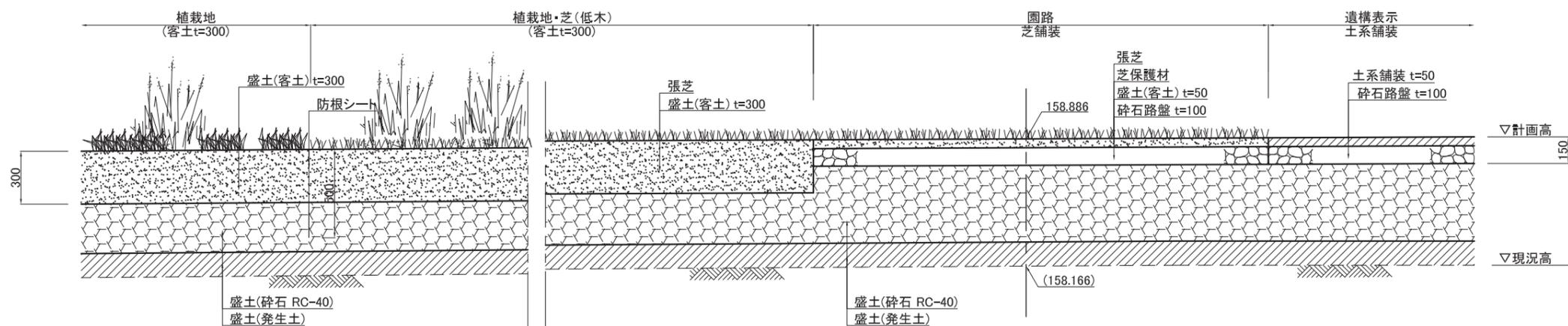
- 凡例
- 盛土客土 t=300 (~0)
  - 盛土客土 t=150
  - 盛土砕石 (浸透層)
  - NO.1 横・縦断面位置
- ※西側砕石盛土に一部発生土流用

平成27年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備	
盛土範囲平面図	
縮尺 1:400 (A1)	番号 6
27年 7月 日	
計画機関	みどり市
作業機関	有限会社ウッドサークル

# 標準断面図(1)

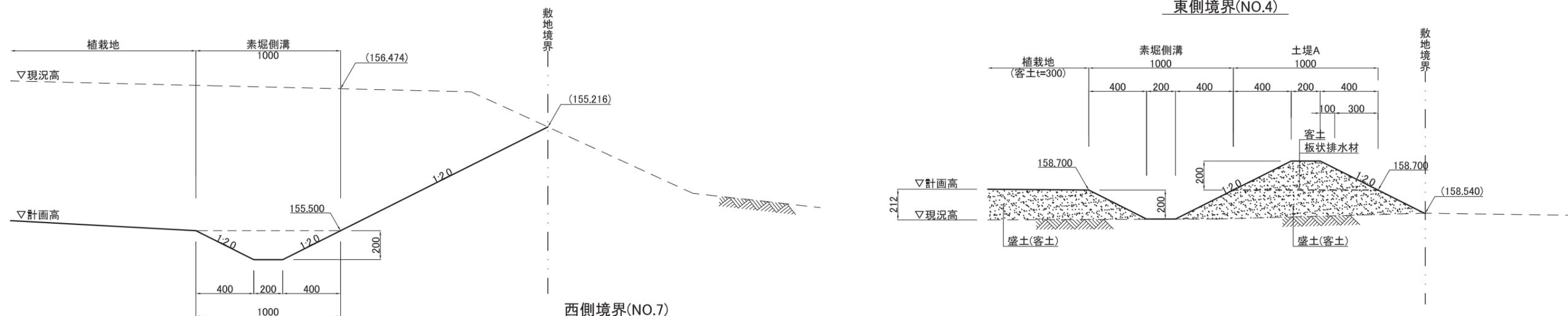
S=1:15

園路・遺構表示(NO.4)

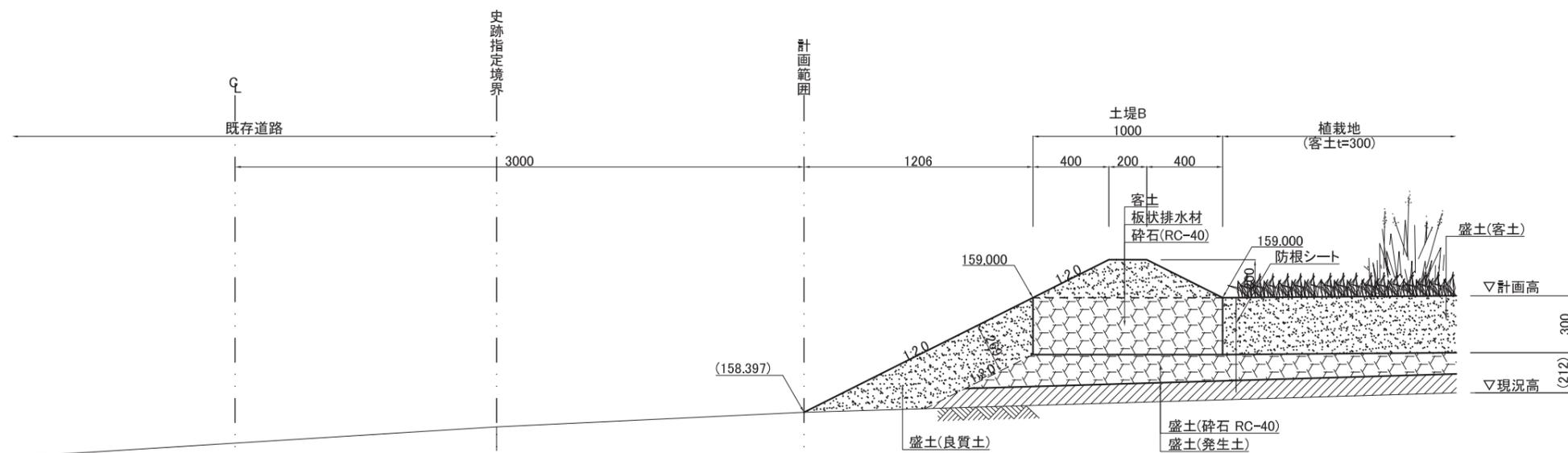


東側境界(NO.2)

東側境界(NO.4)



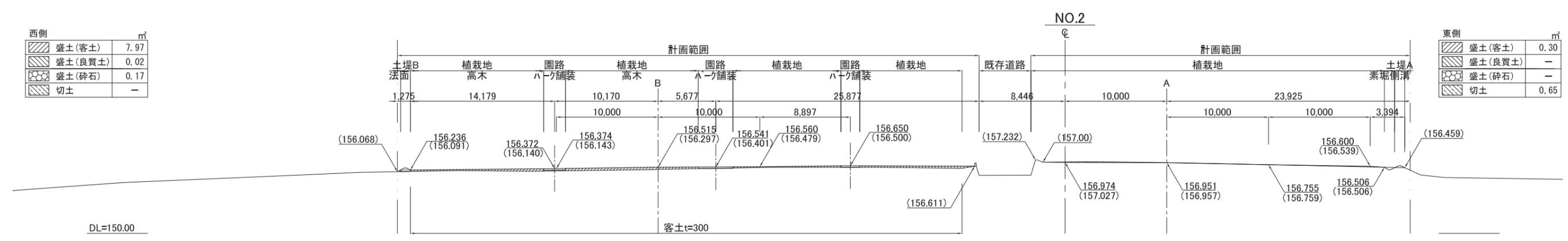
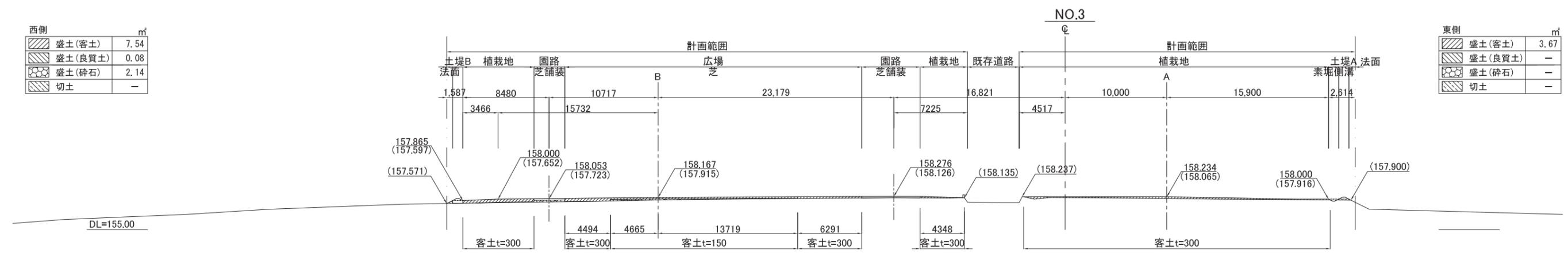
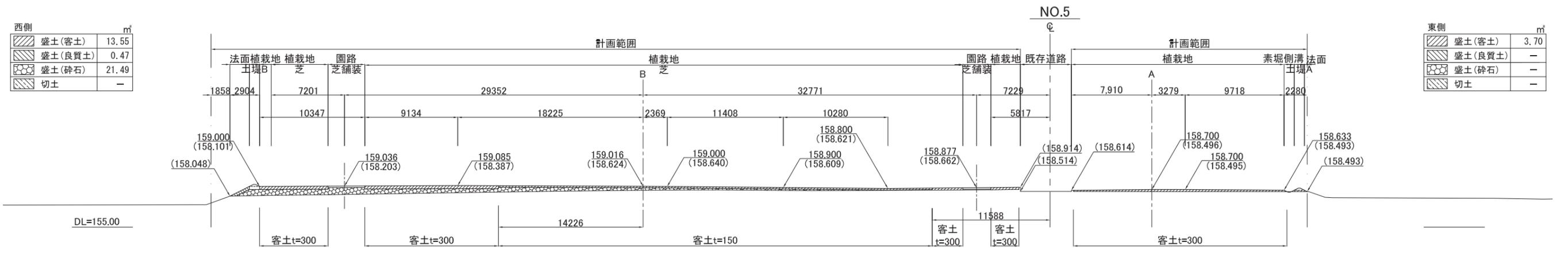
西側境界(NO.7)



平成26年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備	
標準断面図(1)	
縮尺 1:15(A1)	番号 7
27年 4月 日	
計画機関	みどり市
作業機関	有限会社ウッドサークル

# 横断面図

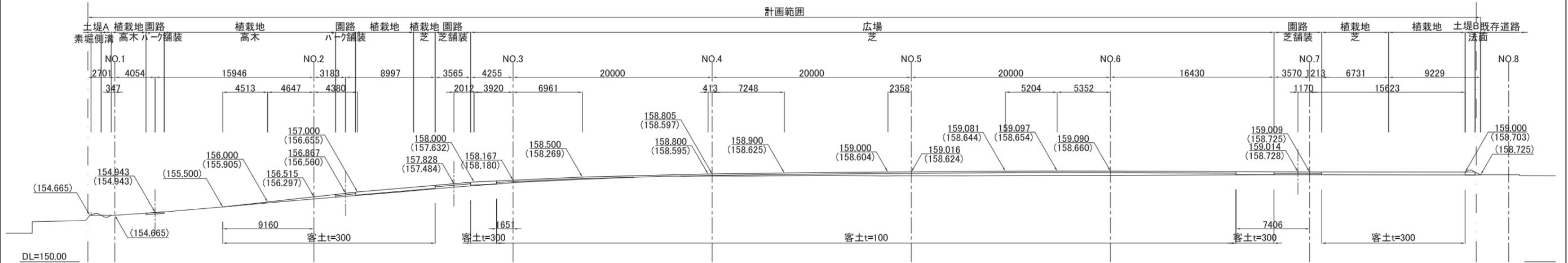
S=1 : 200



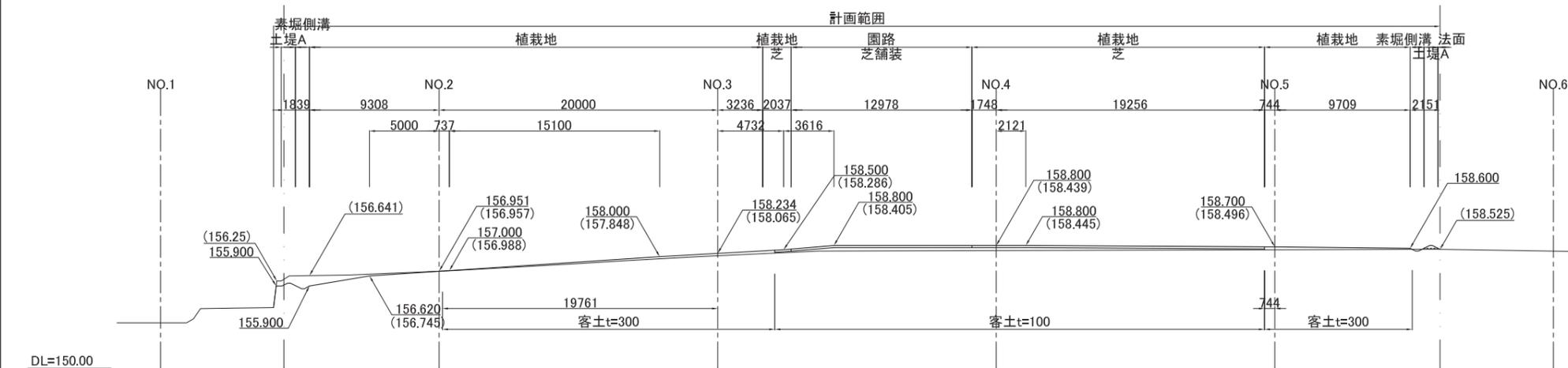
# 縦断面図

S=1:200

B-B



A-A



平成27年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備			
縦断面図			
縮尺	1:200(A1)	番号	11
		27年 7月 日	
計画機関	みどり市		
作業機関	有限会社ウッドサークル		

# 排水施設計画平面図

S=1:400



凡例

記号	名称	形状寸法	単位	数量	備考
	素堀側溝	W=1000	m	218.3	
	土堤A	W=1000	m	221.8	
	土堤B	W=1000	m	201.8	
	浸透層				

平成27年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備		
排水施設計画平面図		
縮尺	1:400 (A1)	番号 14
		27年 7月 日
計画機関	みどり市	
作業機関	有限会社ウッドサークル	

# 植栽計画平面図

S=1:400

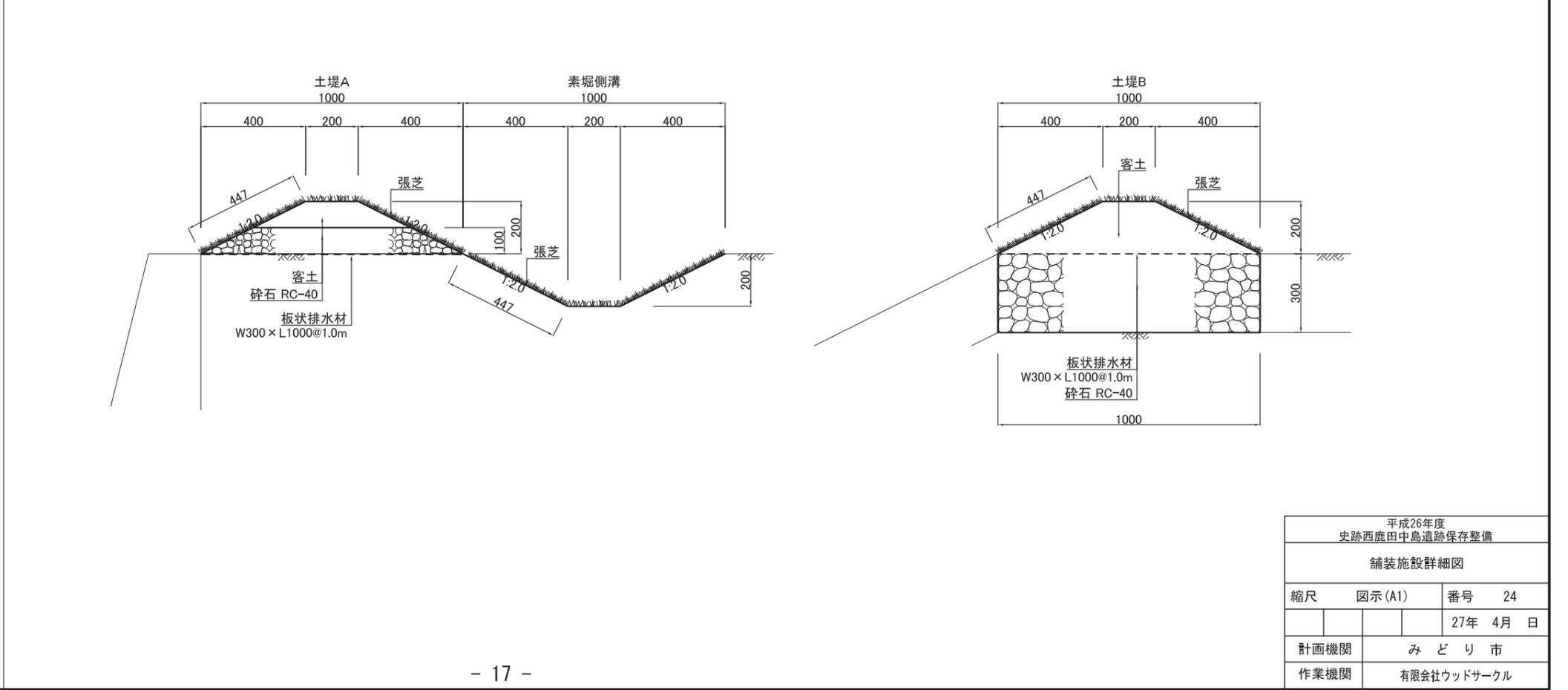
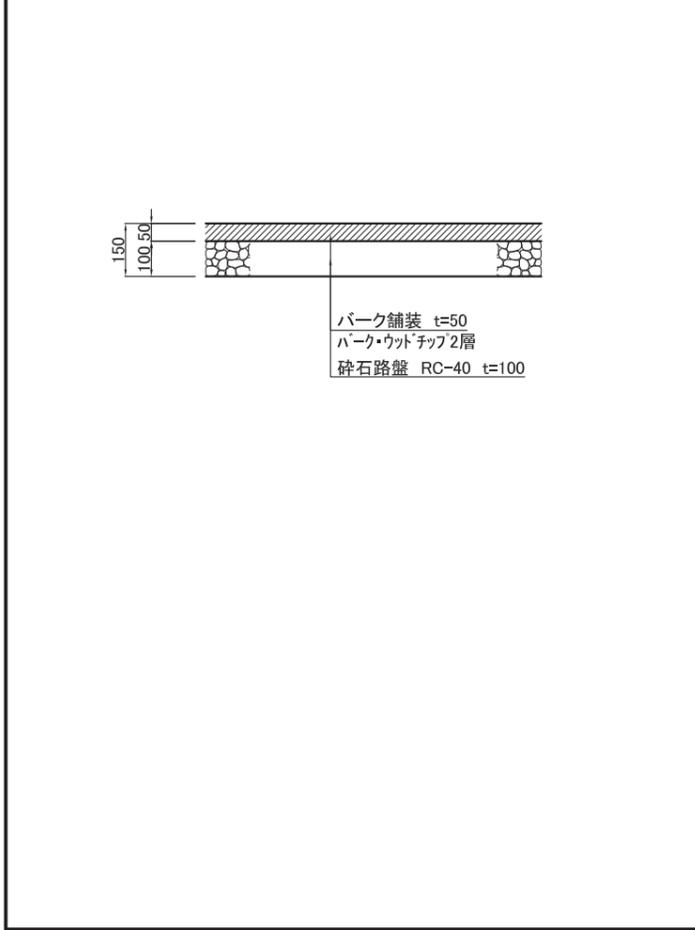
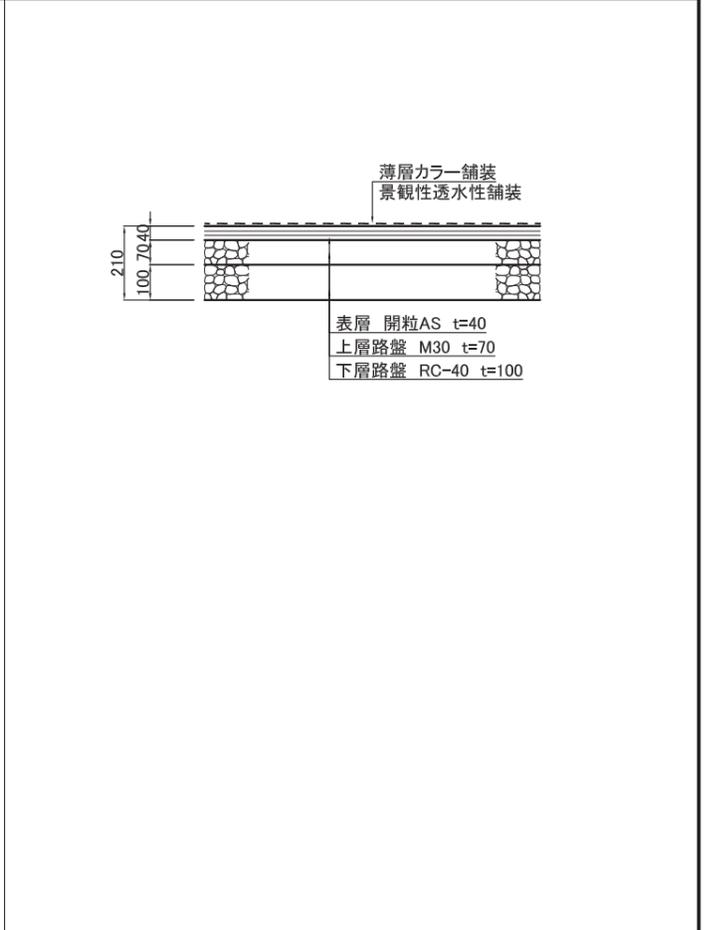
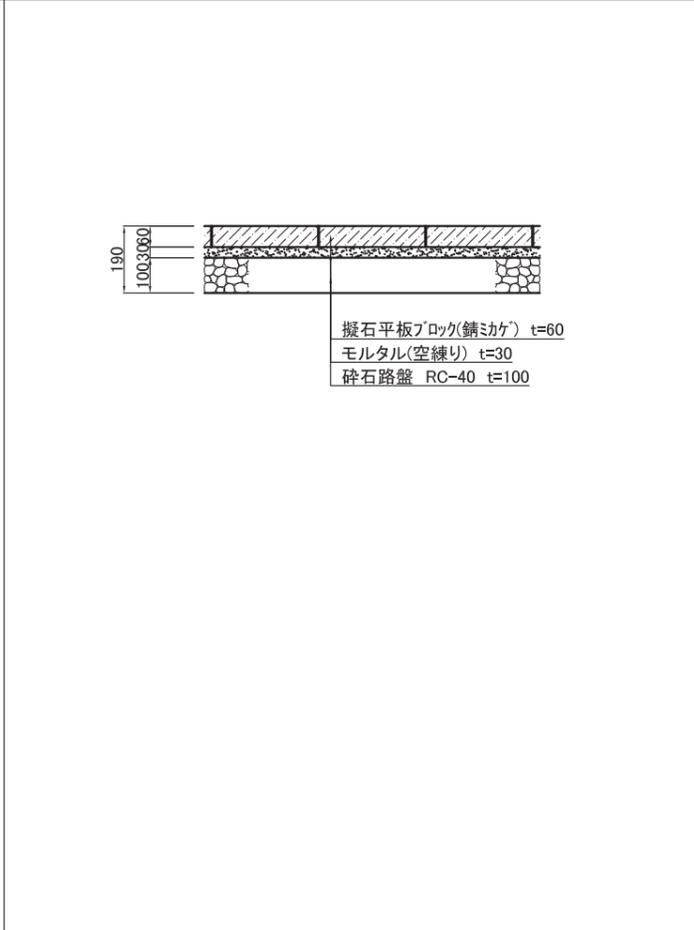
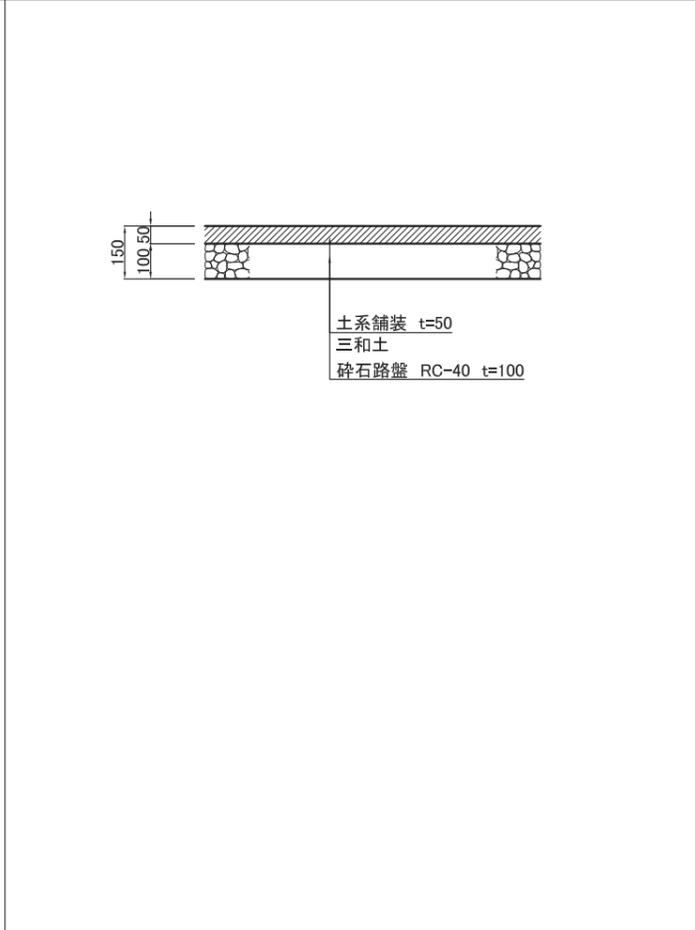
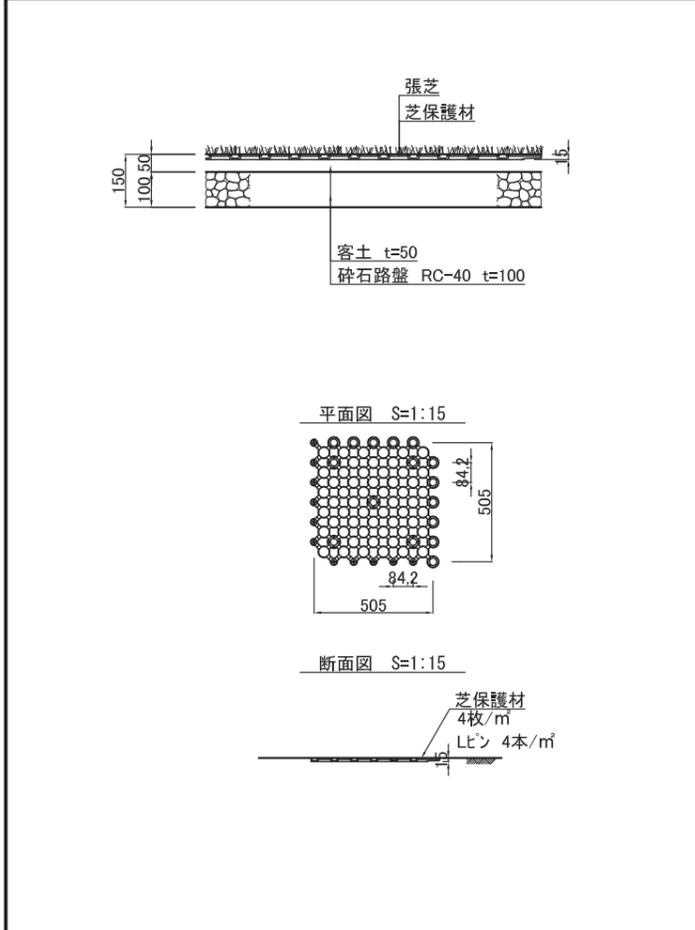


凡例

記号	名称	形状寸法			単位	数量	備考
		H	C	W			
㊦	エゾエノキ	4.0	0.21	1.5	本	1	ハッ掛支柱(丸太)
㊧	エゾエノキ	3.0	0.12	1.2	本	4	ハッ掛支柱(竹)
㊨	オニグルミ	4.0	-	-	本	2	ハッ掛支柱(丸太)
㊩	オニグルミ	3.0	-	-	本	14	ハッ掛支柱(竹)
㊪	カシワ	4.0	-	-	本	3	ハッ掛支柱(丸太)
㊫	カシワ	3.0	-	-	本	2	ハッ掛支柱(竹)
㊬	コナラ	4.0	0.21	1.5	本	3	ハッ掛支柱(丸太)
㊭	コナラ	3.0	0.12	0.8	本	8	ハッ掛支柱(竹)
㊮	トチノキ	3.0	0.15	0.8	本	1	ハッ掛支柱(竹)
㊯	ハンノキ	4.0	0.15	1.2	本	1	ハッ掛支柱(竹)
㊰	ハンノキ	3.0	0.10	0.8	本	6	ハッ掛支柱(竹)
㊱	ハシバミ	0.5	-	-	株	227	
㊲	ヤマハギ	-	-	3芽立	株	84	
㊳	ヤマユリ	-	-	㊦径10.5	株	125	
㊴	ヤマブドウ	-	-	㊦径12.0	株	28	
㊵	フックソウ	-	3芽立	㊦径9.0	箇所	22	(66鉢) 3株/箇所
㊶	チシマザサ	-	3芽立	㊦径12.0	鉢	348	4鉢/m <sup>2</sup>
㊷	ミヤコザサ	-	3芽立	㊦径12.0	鉢	4001	4鉢/m <sup>2</sup>
㊸	張芝	野芝			m <sup>2</sup>	4788.4	

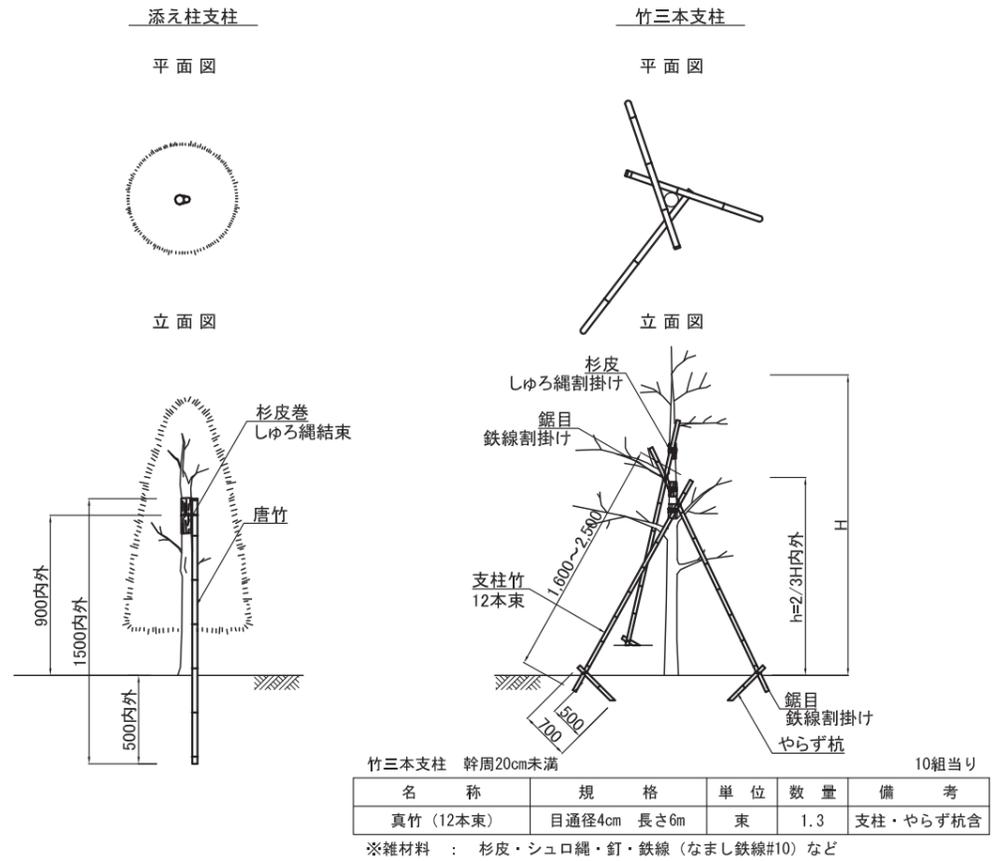
高木防根シート敷し範囲  
 エゾエノキ H=4.0 1本  
 エゾエノキ H=3.0 2本  
 オニグルミ H=4.0 2本  
 オニグルミ H=3.0 6本  
 カシワ H=4.0 2本  
 コナラ H=4.0 3本

平成28年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備	
植栽計画平面図	
縮尺 1:400 (A1)	番号 6
	27年 7月 日
計画機関	みどり市
作業機関	有限会社ウッドサークル

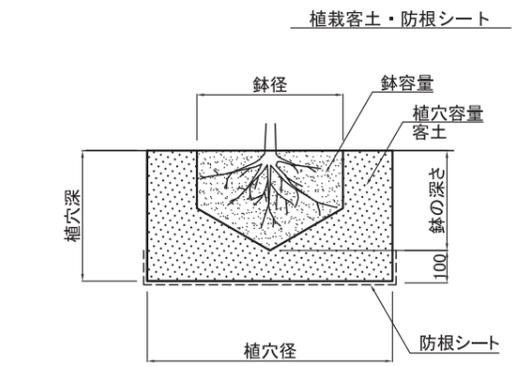


平成26年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備		
舗装施設詳細図		
縮尺	図示(A1)	番号 24
		27年 4月 日
計画機関	みどり市	
作業機関	有限会社ウッドサークル	

支柱工



中高木植樹工

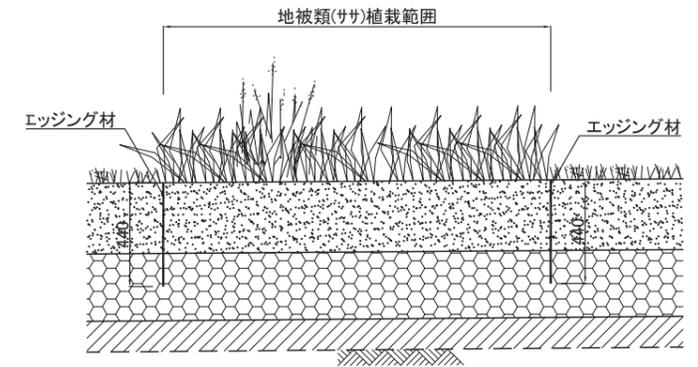


■客土量

形状	鉢径 (cm)	鉢の深さ (cm)	植穴径 (cm)	植穴深 (cm)	鉢容量 (m³)	植穴容量 (m³)	防根シート (m²)	備考
高木(幹周)								
10以上 15未満	38	28	75	40	0.028	0.14	0.86	防根シート □750 0.86㎡/本
15以上 20未満	47	33	87	46	0.061	0.27	1.10	防根シート □870 1.10㎡/本
20以上 25未満	57	39	99	53	0.11	0.44	1.38	防根シート □990 1.38㎡/本

地被類防根シート

S=1:15



平成26年度 史跡西鹿田中島遺跡保存整備	
植栽工詳細図	
縮尺	— (A1) 番号 27
	27年 4月 日
計画機関	みどり市
作業機関	有限会社ウッドサークル

### 3-3. 整備に導入する植物

#### ○ 植栽植物 1

##### ① エゾエノキ (蝦夷榎)

学名 : *Celtis jessonsis* Koidz

ニレ科の落葉高木。エノキに似るが葉の縁（へり）にはほぼ全体にとがる鋸歯（きよし）があり、果柄はより長く、長さ2～2.5センチメートルあり、果実は熟すと黒色となる。北海道南西部、本州、四国、九州の山地に生え、朝鮮の済州島にも分布する。材は柔らかく家具材とする。国蝶（こくちょう）オオムラサキの食草でもある。（出典：日本大百科全書）



##### ② エノキ (榎)

学名 : *Celtis sinensis*

ニレ科エノキ属。20 m。本州～沖縄、中国中部。

山野の湿った場所に多い。四方に枝を広げ、貫録のある樹形になる。昔は一里塚の目印として街道沿いに植えられていて、今でもその名残の大木が見られる場所もある。太い枝を横に張り、樹皮は灰黒色で裂け目は無い。葉は左右不相称で、基部から分かれる3本の脈が目立つ。国蝶のオオムラサキの幼虫が木の葉を食べることで知られる。花期は4～5月。9月には球形の果実が赤褐色に熟す。（出典：葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑）



##### ③ オニグルミ (鬼胡桃)

学名 : *Juglans mandashrica* var. *sieboldiana*

クルミ科クルミ属。7～10 m。北海道～九州、サハリン。

川沿いなどの湿った場所に多く、5～9対の小葉が並ぶ葉が特徴的で、よく目につく。果実の中の種子は食用になり、一般に市販されるカシグルミよりも濃厚な味だが、果実の殻が固く、割るのは至難の業。果実はリスやネズミの食料になり、それともなつて種子散布される。また、川沿いに点々と生えることから水流によつても散布されているようだ。（出典：葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑）



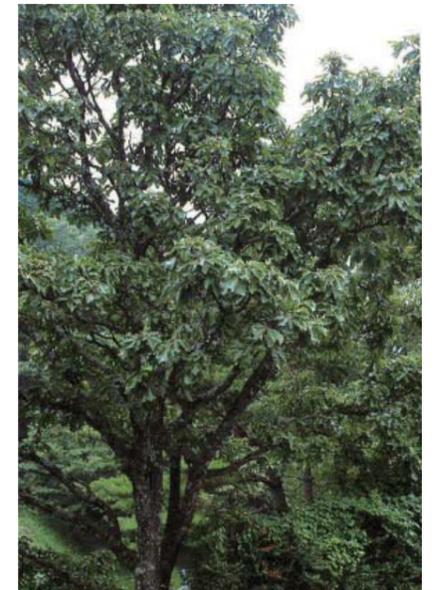
##### ④ カシワ (柏 榎)

学名 : *Quercus dentata*

別名 : カシワギ モチガシワ

ブナ科コナラ属。15 m。北海道～九州、南千島、ウスリー、朝鮮半島、中国、台湾。

山野に生え、やせた土地や乾燥地、海岸にも生える。ブナ科で最大の葉をつけ、柏餅を包む葉として知られる。名前はもともと「炊葉」を意味し、食べ物を葉に盛ったことに由来する。葉には大きな波状の鋸歯がある。枝は横に広がり、樹皮にはコルク質が発達する。花期は5～6月。ドングリはその年の秋に熟し、線形の鱗片が多数ある殻斗に包まれる。（出典：葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑）



## ○ 植栽植物 2

### ⑤ コナラ (小櫨)

学名 : *Quercus serrata*

別名 : ホウソク ハハソク ナラ

ブナ科コナラ属。20 m。北海道～九州、朝鮮半島。

クヌギと並んで雑木林を代表する樹木。こちらのドングリは細く小さめだが、やはり子供にとっては貴重な遊び道具。また、かつての薪炭用の役目は終わったが、シイタケ栽培の原木など、今でもさまざまな用途に利用されている。花期は4月下旬。黄色く垂れ下がる雄花序が目立つ。葉は縁に大きな鋸歯があり、新緑、紅葉とともに目を楽しませてくれる。(出典: 葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑)



### ⑥ トチノキ (栎の木 榎の木)

学名 : *Aesculus turbinata*

トチノキ科トチノキ属。20～30 m。北海道(札幌市以南)～九州。

山地の沢沿いに多く生える。大きな葉が葉団扇のようにつく様子が特徴的。5～6月、直立した円錐状の穂に白い花を咲かせる。果実は9月に熟すと割れ、1～2個の大きな種子を出す。この種子にはデンプン質が豊富で、それを加工したものが栎餅。蜜源植物としても重要で、材も建築材に利用されるなど、山村の生活に根差した植物でもある。(出典: 葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑)



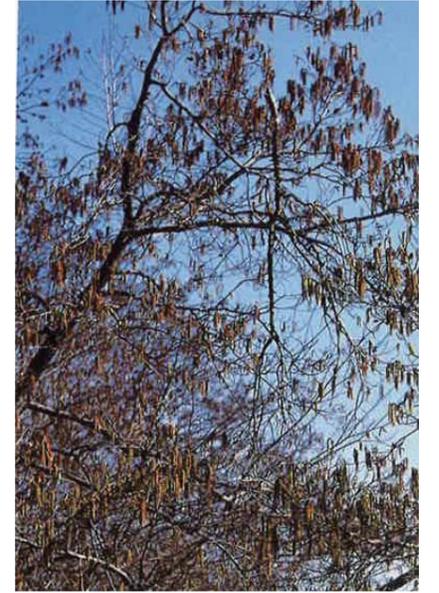
### ⑦ ハンノキ (榛の木)

学名 : *Alnus japonica*

別名 : ハリノキ

カバノキ科ハンノキ属。10～20 m。北海道～沖縄、南千島、ウスリー、朝鮮半島、中国、台湾。

まだ肌寒い季節に、枝いっぱいに穂を垂らしている木があれば、それがハンノキだ。湿地の周辺など、平地の湿潤な場所に生える。花期は2～4月で、ふと訪れた暖かい日に一気に花を咲かせる。暖地では年明け前にも開花する。小さな松かさ状の果穂がなり、10月に種子が熟す。(出典: 葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑)



### ⑧ ハシバミ (榛)

学名 : *Corylus heterophylla* var. *thunbergii*

英名 : Asian Hazel

カバノキ科ハシバミ属。ウスリー河流域(ロシア沿海地方)、アムール河流域(中国東北部を含む)から中国陝西省にかけての地域、ならびに朝鮮半島と日本列島(北海道、本州、九州)に分布する。

落葉低木。花期は3～4月ごろで雌雄同株。雄花は尾状花序で、雌花は芽鱗に包まれたまま開花して、赤い柱頭だけが目立つ。果実(堅果)は食用にできる。世界的に流通しているヘーゼルナッツは本種の同属異種にあたるセイヨウハシバミ(西洋榛)である。(出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』)



## ○ 植栽植物 3

### ⑨ ヤマハギ (山萩)

学名 : *Lespedeza bicolor*

マメ科ハギ属。1～2 m。北海道～九州、朝鮮半島、中国、ウスリー。

山野の林縁や草地に生え、北海道から九州までもっとも普通に見られるハギ類。秋の七草に数えられ実際にハギ属には「草」の仲間も多いが、本種は樹高1～2 mになる低木。ただし、冬には地上の枝はほとんど枯れてしまう。花期は7～9月。枝の先端に紅紫色の蝶形花を多数咲かせる。ヤマハギの仲間はどれも似ているが、本種は小葉の先が円い。(出典：葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑)



### ⑩ ヤマユリ (山百合)

学名 : *Lilium auratum* Lindl

ユリ科ユリ属。本州近畿以北の山地に生え、また栽培する多年草。鱗茎は扁球形で径10cmくらい。茎は高さ1～1.5 m、直立、花期に重みで少し倒れる。葉は茎に散生し有柄、長さ10～15cm、革質で平滑。花は7～8月、径15～20cm、香気が強い。花被片6、先端は反り返る。おしべ6、葯は長さ2cmくらい。鱗茎は食用。1枚ずつはがして調理する。(出典：学生版原色牧野日本植物図鑑(北隆館)、匂を見つける山菜・木の実(長岡書店))

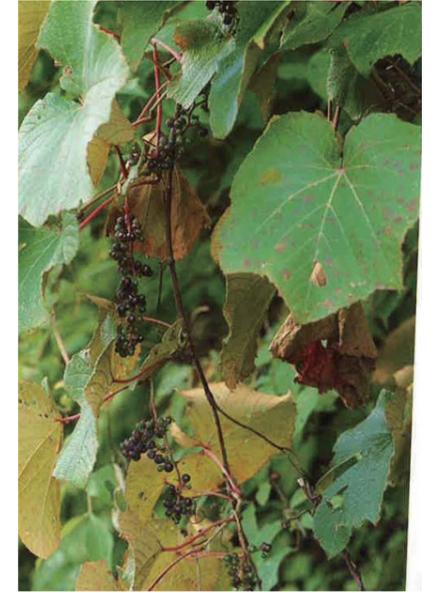


### ⑪ ヤマブドウ (山葡萄)

学名 : *Vitis coignetiae*

ブドウ科ブドウ属。つる性。北海道、本州、四国、南千島、サハリン、ウスリー、アムール、鬱陵島。

山地の林縁などに生える野生のブドウ。甘酢っぱい果実は高級な山の幸で、生食のほかジャムやジュースにして楽しめる。つる性の樹木で、他の植物に巻きひげで取りつき、這い上がる。葉は大きく、角張った円形で、基部はハート形、いわゆるブドウ形の葉だ。秋の美しい紅葉も楽しみの一つ。花期は6～7月。葉に対生する花序に小さな花を多数咲かせる。(出典：葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑)

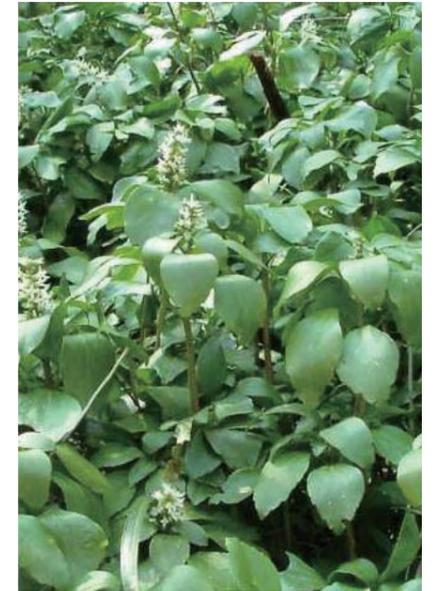


### ⑫ フッキソウ (富貴草)

学名 : *Pachysandra terminalis*

ツゲ科フッキソウ属。常緑小低木。日本(北海道～九州)を含む東アジアに分布する。山地の林内に生え、また、グランドカバーとしてよく栽培される。

雌雄同株。茎の下部は地を這い、上部は斜上して高さ20～30cmになる。葉は厚く、密に互生し、長さ5～10cm、幅2～4cmの卵状楕円形または菱状倒卵形。上半分に粗い鋸葉がある。雄花は茎の上部に密につき、その下に雌花が5～7個つく。雄花にも雌花にも花弁はなく、4個の萼片がある。果実は核果。長さ約1.5cmの卵形で白く熟す。花期は3～5月。(出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)



## ○ 植栽植物 4

### ⑬ チシマザサ (千島笹)

学名 : *Sasa kurilensis*

別名 : ネマガリダケ (根曲竹)、コウライザサ (高麗笹)

イネ科タケ亜科ササ属。1.5～3m。ササの仲間では最も北部に分布する。日本列島 (四国愛媛県、本州鳥取県以北の日本海側、および東北地方、北海道)、千島列島南部、朝鮮半島、樺太 (サハリン島)。

山地に群生。稈の上部でのみ枝分かれする。モウソウチクが普及する以前、チシマザサは日本を代表する竹・笹類のひとつであった。花は穂状で、約60年に一度、群落全体が咲き、結実後、枯死する。

稈は農作物の支柱や竹細工に利用される。

筍は5～6月に収穫できる。灰汁が少ない。

(出典 : フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

写真は Web ページより転載)



### ⑭ クマザサ (隈笹)

学名 : *Sasa albo-marginata Makino et Shibata*

*Sasa veitchii*

別名 : ヤキバザサ

イネ科ササ属。冬に葉の縁に白色の隈どりができるから隈笹という。本州中国地方、四国、九州に野生または野生化しているが、庭に植栽され、群生する常緑の笹類。地下茎は横に這い、先は直立、茎は細長く中空、高さ40～100cm。上部で多少分枝する。葉は枝先に4～7片掌状につけ、長さ15～25cm。表面は深緑色で滑らか。裏面は白味を帯び無毛。夏、まれに開花する。

(出典 : 学生版原色牧野日本植物図鑑 (北隆館)、

葉・実・樹皮で確実にわかる樹木図鑑)



夏



冬

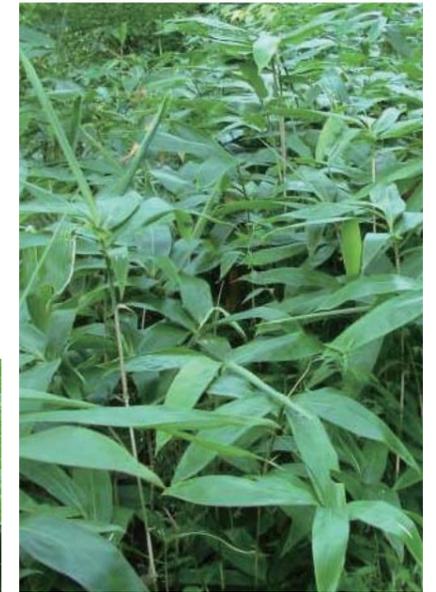
### ⑮ チマキザサ (粽笹)

学名 : *Sasa Palmata*

イネ科ササ属。稈は高さ1.5～2m、直径7～8mm。北海道、本州 (日本海側)、九州北部に生える。

節はやや膨れる。枝は一節から、一個出る。葉身は20～25cm、幅6～8cm。葉の両面とも無毛であることが、他の笹との区別点であり、チマキを作ったり、料理を盛るなどに利用される。

(出典 : 松江の花図鑑 Web ページ、岡山理科大学植物生態研究室 Web ページ)



### ⑯ ミヤコザサ (都笹)

学名 : *Sasa Niponica*

イネ科ササ属。高さ50～80cm。

北海道から本州の太平洋側、四国、九州に分布。稈は分岐せず、一本立ちで、節が球状に膨れる。京都比叡山で発見されたので、この名がある。葉は広披針形で下面に毛がある。

(出典 : 三省堂大辞林、竹図鑑 (Web ページ))



## ○ 植栽植物 5

### ⑰ ニッコウザサ（日光笹）

学名： *Sasa nikkoensis*

日本の各地に分布。葉は長楕円形で、表面には細かい毛が生えている。冬になると葉の周りが白く隈取される。

名前は、牧野富太郎博士が日光で発見したことによる。

ミヤコザサに似ているが、節に下向きに毛がある。

(出典：植物図鑑 Web ページ、諏訪の植物 Web ページ)



## ○ 活用の中で導入する植物

整備後に、市民参加の体験活用等によって山野草や下草類を導入する。

以下は、その後補となる植物（須藤先生のご指導による）。

オミナエシ、オトコエシ、ハッカ、ハエドクソウ、フデリンドウ、オカノトラノオ、ミツバ、トチバニンジン、スマレ、タチツボスマレ、ツボスマレ、フッキソウ、ヤハズソウ、ゲンノショウコ、ナンテンハギ、ヌスビトハギ、ワレモコウ、ヘビイチゴ、ムラサキケマン、キンミズヒキ、アズマイチゲ、ミスミソウ、サラナシショウマ、ヤマオダマキ、ミズヒキ、スイバ、アカザ、アカソ、イタドリ、ママコノシリヌグイ、フタリシズカ、イカリソウ、ノビル、ホウチャクソウ、ネバリノギラン、ヤブカンゾウ、チゴユリ、シオデ、ヤマホトトギス、ヒメヤブラン、ユキザサ、オニユリ、クルマユリ